令和８年度 第３回 東京都感染症対策連絡会議

令和 8 年 10 月 22 日（木）午後 3 時 00 分
都庁第一本庁舎 33 階特別会議室 N 6

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]
それではただいまから令和 8 年度第 3 回東京都感染症対策連絡会議を開催いたします。私が進行を務めさせていただきます保健医療局感染症対策調整担当部長の宮田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。委員のご紹介につきましては、事前にお送りさせていただいた名簿に代えさせていただきます。

また、本日の外部専門家といたしまして、感染症医療体制戦略ボードから小平先生と大曲先生、東京都医療体制戦略監の上田先生、それから東京 iCDC 所長の賀来先生にご参加いただいております。先生方、お忙しいところ誠にありがとうございます。なお、本会議は公開となっております。議事録につきましては、後日ホームページにて公開いたします。また、会議を報道機関に公開しております。

それでは議事に先立ちまして、座長の佐藤（智）副知事からご挨拶をいただきます。

[佐藤（智）副知事]
副知事の佐藤でございます。会議の冒頭に一言申し上げます。まずは、感染症医療体制戦略ボードの大曲先生、小平先生、医療体制戦略監の上田先生、東京 iCDC 所長の賀来先生にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今年はインフルエンザが昨年より 6 週早く、第 37 週に注意報基準を超えております。入院患者の報告数が昨シーズンのピークと同程度まで増加しているなど、昨年までとは異なる感染動向がございまして、注意が必要でございます。また、海外では多くの国で継続して麻しんの流行が見られます。こうした状況に鑑みまして、いち早く都民の皆様へ情報提供、注意喚起を図るため、本日の会議を開催することといたしました。

本日は、インフルエンザ、急性呼吸器感染症（ARI）、麻しん、感染性胃腸炎といっ

た注目すべき感染症、また、都の取組として HIV 郵送検査事業について説明がございます。本日の会議はオンラインでも公開しておりまして、都民の皆様への情報提供及び注意喚起につなげたいと思います。都民の命と健康を守るため、関係機関が一丸となって感染症対策を進めていくことが重要でございます。専門家の皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと思います。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]
ありがとうございました。それではまず、資料 1、注目すべき感染症について、保健医療局西塚感染症対策調整担当部長よりご説明いたします。

[保健医療局 西塚感染症対策調整担当部長]
資料 1 を使って、注目すべき感染症について説明いたします。初めにインフルエンザの動向です。今月 11 日までの第 41 週、都内のインフルエンザ患者報告数は 6,638 人、一医療機関当たり 15.88 人でありました。14 歳以下が 63%を占めます。右上のグラフ、25 か所の基幹定点医療機関における入院患者数は 122 人と、昨シーズンのピーク時 133 人に迫っています。入院患者の 3 割は 10 歳未満の小児、5 割は 65 歳以上の高齢者が占めます。都は 9 月 17 日にインフルエンザ流行注意報を発表し、都民、学校、施設に対して感染予防を要請しています。今シーズンは例年より流行開始が早く、流行が長期間続いたり、大きな流行が一度のみならず繰り返すおそれもあります。また、第 41 週にはインフルエンザ脳症が 2 件報告されました。2 名とも 5 歳未満で、このうち 1 名が死亡しています。重症化しやすい小児、高齢者、基礎疾患をお持ちの方は特に注意が必要です。

次に、急性呼吸器感染症（ARI）の動向です。昨年 4 月から、都内 419 の定点医療機関で患者数を把握する調査を開始しています。第 41 週は一医療機関当たり 74.47 人でありました。ARI の病原体の検出状況です。41 の医療機関の協力を得て、患者から検体を集め、病原体を調べています。インフルエンザが最も多くを占めるほか、気管支

炎や肺炎を起こすRSウイルス、風邪の原因となるエンテロウイルスやヒトメタニューモウイルスが検出されています。

次に、感染性胃腸炎です。例年、11月から1月にかけて感染性胃腸炎の報告が増加します。保育園と小学校で集団胃腸炎の報告がありました。第41週の感染性胃腸炎の患者数は956人で、一医療機関当たり3.63人でありました。

感染予防のお願いです。インフルエンザ予防として、手洗い、咳エチケット、換気を徹底してください。自治体によるインフルエンザ、新型コロナの定期接種が始まっています。対象者は早めのワクチン接種をご検討ください。感染性胃腸炎の予防として、石けんによる手洗い、食品の加熱を徹底してください。

次は麻しん、いわゆるはしかであります。世界各地で麻しんが再流行しています。WHOによると、カナダ、イギリス、スペインなど麻しんの排除認定を受けていた7か国が排除認定を取り消されています。また、アメリカ・ニューヨーク州でも今月5日、麻しんの急増を受け、災害緊急事態宣言が発令されています。検疫所、保健所では、渡航者に対して注意を呼び掛けています。都内では、2015年に麻しんの排除が認定されてから、今年が最も多く発生しています。4月に大きな流行がありましたが、5月には収束しています。その後も海外からの輸入例を起点とする報告が散発しています。

麻しん対策です。様々な媒体を用いて定期接種を呼び掛けています。このほか、麻しん患者と接触して72時間以内の方にワクチンを接種し、発病・重症化を防ぐワクチン緊急接種事業を今年5月に開始しました。現在、97の医療機関で実施しています。都民の皆様には、麻しんにかかったことがなく、2回のワクチン接種を受けていない方は、抗体検査やワクチン接種をご検討ください。また、保健所から麻しんの接触者として緊急接種を勧められた際は、ぜひ接種をご検討ください。

次にエボラ出血熱であります。今年5月にWHOが緊急事態を宣言したエボラ出血熱ですが、コンゴ民主共和国での感染者は9,415人、死亡者数は4,536人、致命率48%となっています。最新の情報では、ケニアで確定患者数が9人に増えたこと、また、

ナイジェリアで初めてエボラ出血熱患者が確認されたことなどが更新されています。最新のリスク評価では、一般の日本国民がエボラ出血熱に感染する蓋然性は依然低いとされております。都では引き続き、国内外の情報を分析し、都民に分かりやすくお知らせしてまいります。注目すべき感染症は以上です。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]
ありがとうございました。次に、都の取組として、資料 2 を保健医療局西塚感染症対策調整担当部長よりご説明いたします。

[保健医療局 西塚感染症対策調整担当部長]
資料 2 で新たな都の取組について報告します。まず、HIV/エイズの動向です。都内の HIV 報告数は 2014 年をピークに、これまで減少傾向が続いてきました。一方、今年 2026 年は第 41 週時点で 216 件と、前年同期の 212 件と比べ増加に転じています。仮に年間報告数が前年を上回れば 3 年ぶりとなります。年齢階級別では、30 代以下の若い世代で割合が増えています。また、HIV 報告者に占めるエイズ発症者の割合、いわゆる「いきなりエイズ率」が増加してきていることから、若年層での検査の遅れが課題となっています。

こうした課題を払拭するため、多様な検査の機会を提供していきます。都は 10 月 1 日、HIV 郵送検査を開始しました。自宅で血液を採取して郵便で送りますと、感染の有無をスマートフォンで確認することができます。本日 9 時時点で 621 件のお申込みをいただきました。これから、11 月 16 日からのエイズ予防月間のイベントでも早期検査を啓発してまいります。東京都の取組は以上です。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]
ありがとうございました。議事は以上となります。それでは、本日ご参加いただいている専門家の先生方からコメントをいただければと思います。まず、会場にいらっしゃる賀来先生、お願いいたします。

[賀来先生]
本日は、インフルエンザ、急性呼吸器感染症、麻しん、感染性胃腸炎、エボラ出血熱など、注目すべき感染症についての説明がございました。今シーズンのインフルエンザについては、先ほどご報告がありましたように、例年に比べ流行開始が早く、今後の動向が現時点では読みづらい状況となっております。

ただ、今年度の特徴としましては、高齢者や 10 歳未満の入院患者が多いこと、そしてまた、ご報告がありましたが、インフルエンザ脳症の報告などもあり、注意が必要であると思います。

感染症対策は、流行時の対応だけでなく、日常で実践できる予防の積み重ねが極めて重要となります。今後もぜひ、この東京都感染症対策連絡会議を通じて、都民や現場の皆様に必要な情報を届けていただくようお願いしたいと思います。

また、第 2 回の本会議でもご紹介をさせていただきましたが、東京 iCDC では、より実践的な支援の側面から、これまで保育所、高齢者施設、障害者施設などに向けたハンドブックや啓発動画といった各種のツールを作成してまいりました。さらに、今年度は東京 iCDC による小学校への感染症対策の出前授業も実施しております。引き続き、関係部局でもこれらのツールをぜひご活用いただき、感染対策にお役立ていただければ幸いです。

また、東京 iCDC は、専門家の知見をもとに、国内外の感染症の疫学に関し迅速に情報を収集し、必要な分析や助言を行うとともに、科学的な知見・エビデンスに基づいた実践的な支援を行い、東京都の効果的な感染症対策をしっかりと支えてまいります。私からは以上でございます。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]
賀来先生、どうもありがとうございました。ただいまご紹介のありました各施設向けのツール等につきましては、東京都感染症情報のホームページに掲載してございますので、ご確認いただければと思います。それでは、Web でご参加の小平先生、いか

がでしょうか。

[小平先生]
私の方からインフルエンザに関してコメントしたいと思います。流行はご指摘のように早く始まって、その後は横ばいのような状況になっていますが、私が関わっております地域の病院では、発熱者の外来は動線を分けて対応しておりますけれども、患者が多くて滞留するほどではございません。

9 月の流行初期には、高齢者の重症化の反映が目立つ地域もあったようなのですが、その後は落ち着いているようで、一気に患者の総数が増えたことによるものではないかと考えられます。

入院に関しては、大体数名の高齢者が入れ替わり立ち替わり入院しているような状態で、いずれも今は重症ではありません。特にウイルスの重症化率が高まっているというわけではないのではないかと考えております。私どものグループの七つの地域病院を見てみましても同様の状況で、小児でも特に入院が増えているということではございません。全体的には、院内対策を通常どおり行っていれば問題ないという状況でございます。

ただ、罹患率が横ばいになっておりますので、地域によってはたくさんの患者がいて、そうでないところでは少ないというように、地域によって差がある、まだらな状態になっている可能性があるのではないかと思っています。

また、ワクチン接種につきましては、通院患者さんを中心に、皆さん進んで受けていらっしゃるようです。特に介護施設などでは引き続き注意が必要なので、お勧めしておりますけれども、クラスター発生が多いというようなことはまだあまり聞いておりません。実地の肌感覚としては以上のような状況です。ありがとうございます。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]
小平先生、どうもありがとうございました。続きまして、Web でご参加の上田先生、

いかがでしょうか。

[上田戦略監]
上田です。よろしくお願いいたします。本日は注目すべき感染症についてのお話がありました。インフルエンザは昨年よりも 6 週早く注意報基準を超えています。都内のインフルエンザ入院患者報告数は 122 人で、昨シーズンの 11 月中旬に記録したピークに近い水準まで既に増加しています。その約 3 割が 10 歳未満の小児、約 5 割が 65 歳以上の高齢者であり、重症化に特に注意が必要です。

都立病院においても、複数の病院からインフルエンザによる入院患者の増加が報告されております。成人では、高齢者などに肺炎の合併や心不全の増悪が見られるほか、人工呼吸器管理や ECMO による治療を必要とする重症例も発生しております。また、小児でも呼吸不全やけいれん重積などにより、集中治療を必要とする重症例が報告されています。

一方、新型コロナウイルス感染症については、現在、患者数は比較的少ない状況でありますけれども、冬季には流行する傾向もあることから、今後の感染拡大に引き続き注意が必要です。都民の皆様には、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の予防のため、こまめな手洗い、場面に応じたマスクの着用、換気などの基本的な感染対策を心掛けていただきたいと思っております。また、特に高齢者や基礎疾患のある方、そしてご家族には、かかりつけ医と相談の上、ワクチン接種もご検討いただきたいと思います。

感染性胃腸炎は毎年秋から冬にかけて流行するため注意が必要です。こまめな手洗いや消毒に加え、体調が悪い時には無理な外出や調理を控えるなど、感染拡大を防ぐ行動を心掛けていただきたいと思います。

現在、都内の医療提供体制に逼迫は認めませんが、今後も感染症の発生動向に引き続き注意してまいります。都立病院では、救急患者や重症患者の受入体制を維持する

とともに、保健所と連携した新型インフルエンザ等対策訓練を実施するなど、新たな感染症の発生にも備えております。今後も行政的医療を安定的に提供する使命のもと、都民の命と健康を守ってまいります。以上です。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]
上田先生、どうもありがとうございました。次に、Web でご参加の大曲先生、いかがでしょうか。

[大曲先生]
大曲です。私からもインフルエンザに関して一言ご報告いたします。1 点目は、今般の早期からの流行を踏まえて、国立健康危機管理研究機構でも、今週、リスク評価と言いますか、状況に関してのレポートを出しておりますので、そのご報告をしたいと思います。

早期の流行に関しては、可能性という観点でいくつか例が挙げられておりますけれども、やはりコロナの間に国を挙げて行われた感染対策の影響だと思うのですが、端的には国民全体のレベルで免疫に変化が起こっている可能性があるということが挙げられています。実際、コロナが 5 類になって以降、いろいろな感染症の流行の動向がかなり変わっておりますので、その影響があり得るというのが一つです。

あとは、今回流行している H1N1 の中でも、サブクレードで D.3.1.1 が今回主に出ておりますが、そこでは遺伝子の変異も入っていて、抗原性もやや変化しているということが書かれていますので、それらの影響もあるのではないかということが挙げられております。

現場感としては、先生方がおっしゃったのと全く同じ風景を我々も見ております。定点が 15 程度であるのですが、実際にはそれ以上の患者さん、そして入院患者さん、特に我々のところでは高齢の方が多く来られたので、この時期の入院患者さんの数としてはやはり度外れに多いというところで、非常に心配したところであります。この

まま定点値がどんどん上がっていって、入院患者さんが相当増えた時にどうなるのかというのは相当心配したところでありますが、ここ数日はちょっと落ち着いたかなと思って見ております。

ただ、また急に上がってきた時に、同じようなことが起こるとして、高齢の入院患者さんが増えたらどうするのか。あるいは、やはり小児の重症化（脳症）が非常に心配でして、そうなった時にどうするのかということに関して、医療現場としてはしっかりと体制を整えておきたいと思っております。私からは以上でございます。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]
大曲先生、どうもありがとうございました。それでは、ご出席の皆様から、ご発言やご質問がございましたらお願いいたします。

それでは、福祉局次長、保健医療局長からご挨拶をいただきたいと思います。まず、浅野次長、お願いいたします。

[浅野福祉局次長]
それでは福祉の立場から一言申し上げます。専門家の先生方から貴重なご意見をいただきまして感謝申し上げます。本日はインフルエンザや麻しんなど、注目すべき感染症の状況について確認することができました。

インフルエンザや感染性胃腸炎などにつきましては、高齢者施設や保育所等で集団発生につながりやすいことから、先ほどご紹介がございました東京 iCDC のツールを活用しながら、引き続き施設等への注意喚起と現場での感染症対策の徹底に努めてまいりたいと思います。感染症対策においては、保健医療局と連携することがとりわけ重要でございますので、引き続き関係機関と協力しながら、しっかりと対応してまいります。以上です。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]
浅野次長、どうもありがとうございました。続きまして、保健医療局長からご挨拶

をいただきます。髙﨑局長、お願いいたします。

[髙﨑保健医療局長]
保健医療局長の髙﨑でございます。本日はご多忙の中、会議にご出席いただきまして、ありがとうございました。大曲先生、小平先生、上田先生、賀来先生、各先生からご意見をいただきまして、インフルエンザに関して、早期の流行、それから地域による差、まだらな状況ですとか、コロナ後の感染症の流行動向の変化など、大変参考になりました。ありがとうございます。

本会議におきましては、インフルエンザ、急性呼吸器感染症（ARI）、麻しん、感染性胃腸炎など、都内の発生状況に加えまして、都の対応状況、都民の皆様にお気を付けいただきたい点について確認ができました。また、麻しん、エボラ出血熱につきましては、海外の情報についても共有することができたと思います。

本日、無料の HIV 郵送検査についてご紹介させていただき、申込みが増えているとのご説明がございました。都としまして、検査を受けやすい環境を整えたことで、早期発見・早期治療につながることを期待しております。

引き続き、都内のみならず海外の感染症の状況を把握しながら、国や関係機関と連携しまして、医療提供体制の確保、施設の感染症対策の支援、都民への情報発信など、全庁を挙げて感染症対策に取り組んでまいります。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]
髙﨑局長、どうもありがとうございました。それでは最後に、佐藤（智）副知事からご挨拶をいただきます。

[佐藤（智）副知事]
先ほどインフルエンザの報告の中で、入院患者の約 5 割が高齢者という報告がございました。これから例年寒くなってまいりますと、感染症に加えて、心筋梗塞ですとか脳卒中など、重篤な患者さんが増えてきて、救急が逼迫するということを、我々は

毎年経験してきているところであります。そういった面で、高齢者の方への対策というのが、感染症そのものだけではなく、救急体制の維持にとって非常に重要な位置を占めてくるのではないかと思っております。そのことは、新型コロナウイルス感染症対策の時にも学んだことであります。

本日、福祉局と保健医療局がよく連携するというお話がございましたけれども、特養ですとか老健ですとか、高齢者施設では感染症予防対策をしっかりと進めていただいておりますが、決して油断をせずに、今のうちに取れる対策を取っていって、救急体制全体をしっかりと守っていくということで、よろしくお願いしたいと思います。私からは以上です。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]

ありがとうございました。本日は専門家の先生方、委員の皆様から貴重なご意見をいただきました。誠にありがとうございます。関係機関と緊密に連携し、感染状況に応じた適切な対応を着実に実行してまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、令和 8 年度第 3 回東京都感染症対策連絡会議を閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。